

彩の歳時記

平成二十七年 七月

なでしこが花見ることそとめに娘をとめ子らが笑わらまひのほひ思おもほゆるかも 大友家持【718～785】

庭のなでしこの花を見るたびにあの人の笑顔のいきいきとした美しさが思われてなりません。

撫子を詠んだ万葉集の二十六首中、十一首が家持の歌。か弱そうに見えて逞しい生命力を持つ可憐な花「撫子」は、古くから日本各地に咲く夏の花で

「常夏なでしこ」の異名も。七月～十月にかけて河原や野原に咲きます。枕草子に

「草の花はなでしこ。唐のはさらなり。やまのものとめでたし」とありますが唐の撫子は

石竹（せきちく）という外来種、河原などに自生する「河原撫子」が代表的存在の**大和撫子**。

「なでしこジャパン」の名に冠し、河原のような土壌でも美しく逞しく咲く姿に横せられます。

語源は愛見に擬した「撫でし子」。これからの季節「撫子」のように元気に乗り切りたいものです。



七月の暦 文月（ふづき・ふみつき） 夜がだんだんと長くなり「文を開く・読む」のに良い月。

一日 山開き 富士山など円錐形の山は霊山として歌に詠まれたり、山岳信仰の対象で神事も行われる。

二日 半夏生（はんげしょう）【雑節】 鳥柄杓・半化粧（はんげしょう）が生える時期。夏至から十一日目。稲の根が蛸の

足のように根づくようにと、蛸を食す習慣がコンビニなどの宣伝で全国的に。

六日 サラダ記念日 1987年、280万部発行・俵万智【1961～】の第一歌集の表題から。

「この味がいいね」と君が言ったから7月6日はサラダ記念日

六～八日 朝顔市 「恐れ入谷の鬼子母神」の地口で慕われる入谷鬼子母神（真源寺）が有名。



七日 小暑（しゅうしょ） 【二十四節気】 日脚は徐々に短くなるが暑さは本格的に。



七夕 別名「星合（ほしあひ）」この日降る雨は「催涙雨（さいるいあめ）」と呼ばれ、織姫とひこ星が流す



涙と言われる。七夕の遊びにその美しさを競い合う「撫子遊び」がある。

九～十日 ほうずき市 「四万六千日」と言われる観音詣の縁日と「盆の草市」が結びついた。



十二日 蓮始咲【七十二候】 春の花見・夏の蓮見・秋の紅葉狩と言われる。

十三日 盆の入り・迎え火。この頃、梅雨明け。 十六日 盆送り火・精霊流しを行う所も。藪入り。

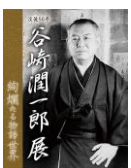
一日～三十一日 祇園祭（ぎおんまつり）【京都】 天神祭（あまてらすまつり）【大阪】 山王祭（やまおうまつり）【東京】（あるいは神田祭）と並ぶ日本三大祭の一つ。

二十日 海の日（うみのひ）（国民の祝日）第三月曜日 世界で『海の日』を祝日としているのは日本だけ。

二十三日 大暑（たいしゅ） 【二十四節気】 この日から立秋までが名実ともに暑さの盛り。

二十四日 土用丑日 土用【雑節】の中で立秋までの期間が最も暑いことから「鰻」を食し夏バテ防止を。

三十日 谷崎忌 谷崎潤一郎【1886～1965】の没後五十年の忌日。



今も旬の女優陣を配し、繰り返し映画（1950・1959・1983年）舞台化（1000回以上）される「細雪」は、松子夫人の実家、船場がモデル。1943年、軍部から「内容が戦時にそぐわない」と中央公論の掲載を止められた。「痴人の愛」「春琴抄」「源氏物語現代語訳」など。

七月の歌 星めぐりの歌 詞・曲 宮沢賢治【1886～1933】



「赤い目玉のサンリ」はさそり座の心臓アンタレス、「青い目玉の仔犬」はおおいぬ座のシリウス、「へびのとぐろ」は逆S字のりゅう座。夜空の幻想的イメージに満ち、主旋律は五音階で親しみやすくBGMや様々な作品に採用。アニメ『銀河鉄道の夜』・映画『あなたへ』・(2013 NHKドラマ)『あまちゃん』

あかじめだまの さそり
ひろげた鷲の つばき
あをいめたまの 小さいぬ
ひかりのへびの とぐろ
オリオンは高く うたひ
つゆとしもとを おとす
アンドロメダの くもは
さかなのくちの かたち
大ぐまのあしを きたに
五つのばした ところ
小熊のひたいの うへは
そらのめぐりの めあて。